

常盤公園で防災訓練

万一に備えての訓練

万一の地震災害に備え市や警察、消防、自衛隊、自主防災組織など26団体から約260人が参加し11月14日、常盤公園で防災訓練を実施しました。

訓練は、市内で震度5の地震が発生し、家屋の倒壊

や多数の負傷者が発生したとの想定。土砂に埋もれた車両や倒壊家屋からの人の救出、炊き出し、応急救護処置などの訓練に取り組みました。昨年発足した地元の上三輪地区自主防災組織は、初期消火や避難などの

訓練に参加しました。

消防や警察など関係車両約30台も投入された実戦的な訓練を振り返り、消防長は「地震の場合、多様な災害が同時多発的に発生するため、消防団や町内会、自主防災組織などの連携が安

全・安心の力になります」と講評しました。

訓練終了後には外国人住民を対象にした防災教室が開催され、アムダグループの野秀利代表代行が、災害時の心構えや非常持出袋の作り方を指導しました。



横転し埋没した車両から人の救助をする消防隊員



救急隊や女性消防団員らによる応急救護措置の訓練



初期消火の訓練



消防団員が被災者役の住民を避難誘導



はしご車による建物からの救助



自衛隊による倒壊家屋からの救助



常盤公園の貯水タンクからの給水



ビニール袋を使った炊飯



車道と歩道を分離するように設置されたポストコーン



目の細かいグレーチングの設置と透水性の舗装がされた歩道

改善策をみんなで考え、ポストコーンの設置や透水性の舗装などを実施した。

国道180号で歩道の改修 歩きやすい歩道へ

東総社駅付近から総社高校までの国道180号の約900メートル区間で、歩道と車道を分離するポストコーン設置や、水路のふたを歩きやすく滑りにくいものへの交換、路肩の拡幅などの改修が完了しました。

この改修の原動力は、国土交通省岡山国道事務所と市の呼び掛けにより平成20年11月以降、地域住民や学校、市、県、警察などをメンバーとした勉強会でした。メンバーは、この区間を実際に歩き、歩道の幅や傾斜、段差など現地点検で得られた課題を把握。安心して利用できる歩道への改善策を協議してきました。その結果をもとに平成22年1月、歩道の改修に着手。同年10月までに一連の工事が完了しました。大きな事故のリスクを少しでも下げる取り組みでした。